



広沢「笑楽幸(しょうがっこう)」スタートです！

校長 辻 英一

例年にない暖かな気候は、花の開花の扉をたたき、いつもよりも早く彩り鮮やかな春の景色を映し出しています。

そのような中、お子様のご入学・ご進級おめでとうございます。春の彩りは皆様の新たな門出をお祝いするとともに、その希望に満ちた清々しい姿をより一層際立たせていることと存じます。

さて、私はこの度の人事異動により、佐野 一機 校長 の後任として着任しました 辻 英一 (つじ えいいち) と申します。この3月までお隣の和光市役所の4階にある学校教育課に勤務していました。まだまだ力不足ではありますが、何事にも教職員と共に、一つ一つコツコツと、丁寧に取り組み、子供たちの成長に全力を尽くしてまいります。

広沢小学校は、今年度で開校47年目を迎えます。これまで皆様と共に築き上げてきた本校の教育の伝統を引き継ぎつつ、今年度の学校計画を次の通りとします。

【学校教育目標】 ひろい心で さわやかに

【今年度の学校経営方針】

〈テーマ〉 新しい学びの広沢「笑楽幸」

〈目指す学校像〉 (1) 学校・地域・保護者が子供たちのために連携し、問題解決を推進する学校
(2) 教職員が「ほうれんそうのおひたし」の精神を持ち、連携して働く学校
(3) 児童が Society5.0 (ソサエティ-5.0) 時代を生きる力を学べる学校

〈目指す児童像〉 (1) 主体的に学ぶ児童
(2) 対話的・協働的に学ぶ児童
(3) 深い学びを体現できる児童

昨年度からスタートした学習指導要領は、これまでにない改訂がなされ、戦後最大の教育改革ともいわれています。現在整備が進められているGIGAスクール構想に基づく一人一台のタブレット端末の整備と相まって、子供たちの学びの姿を大きく変えるものです。

一方、新型コロナウイルス感染症は、未だその収束の兆しを見せず、子供たちの教育活動に大きな影響を及ぼしています。

「笑楽幸」が「笑顔・笑い」と「楽しさ」と「幸福・幸せ」の文字から取っていることはいうまでもありません。しかしそれは、笑ったり、楽しんだりするだけの毎日を目指すことではありません。人は、子供たちのみならず私たち大人も含め、日常生活の中で笑ったり、楽しんだり、やる気に満ちたりする一方で、辛かったり、苦しんだり、悩んだり、泣いたり…するなど、行動や実践の中に様々な感情や考えがもたらされ、その思いや判断、行動と共に成長していきます。マイナスイメージの感情とどう向き合うかも大切な学びです。

その成長をもたらす学びには、これまで培ってきた日本の教育の実践をベースにしつつ、新たな仕掛け(新たな学び方、ICTの活用、地域連携等)が必要です。

新型コロナウイルス感染症が暗い影を落としているこのような時代だからこそ、子供たちに関わる全ての人たちと共に「子供の学び」を追究し、子供たちの姿から、皆様の喜びを2倍に、悲しみを半分にわかちあえたらと存じます。

皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いします。